

行善寺の三又ヒノキ

行善寺 瀬田 1-12



登天2

ヒノキは通常は幹が1本まっすぐ伸びるのですが、このヒノキは三又に分かれています。ヒノキは芯の部分が切られたり枯れたりするとその近くの枝が垂直に伸びて無くなった幹の代わりをします。三又のうち1本は上でさらに分かれていますので三又になってからもアクシデントがあったのでしょうか。今では 20m を超す大木になっています。この木は、世田谷区登録

天然記念物に指定されています。



上の方でさらに分かれています。

ケヤキ

46

豪徳寺 豪徳寺 2-24



本堂西側の丘にある高さ 20m を超える大木です。斜面に根を力強く張っていて、下の写真の丸印のところのところが板のような形になっています。ケヤキの幹がこのような形になるのは珍しい事です。



ヒマラヤスギ

砧 10

都立砧公園 砧公園 1-1



通常ヒマラヤスギは三角形の樹形になりますが、このヒマラヤスギは横に大きく枝を張り出し、力強い独特の樹形を作り出しています。高さ、枝張りとも 20mを超えています。



タイミンチク

園 10

都立園芸高等学校 深沢 5-38



束ようになって生えるのが特徴のササです。トンネルのようになって面白い樹形をしています。中国産だと思われて「大明竹」という名前がつきましたが、沖縄原産です。



クログネモチ

38



区立等々力溪谷公園 日本庭園 野毛 1-15

日本庭園西側の出入口にあります。幹の下の方にはコブがあり、上の方では幹が 2 つに分かれています。コブの部分は枝を剪定した跡だと思われませんが、きれいにふさがり、丸い模様になっています。



クログネモチ

園 4

都立園芸高等学校 深沢 5-38



高さ 14mでクログネモチとしては大きな木です。昭和 61 (1986) 年度にコブが面白い木ということで名木に選定されました。コブがあるところは枝を剪定した跡です。切った傷がきれいにふさがり、下の写真のように丸い模様になっています。生命力を感じさせる木です。



根上がり松（アカマツ）

番 1

個人宅 駒沢 1-16

盆栽のマツが根をおろしたものだそうです。根がタコの足のようになっています。盆栽がここまで大きくなったものなので、かなりの樹齢と思われます。枯れてしまった根や枝はありますが、横に伸びる幹と葉の色つやは良く、元気なマツです。



タギョウショウ（アカマツ）

登天4

都立松沢病院
上北沢 2-1

タギョウショウは地際から株立ちになり、樹形が傘状になるアカマツの品種です。生長はあまり早くなく、これほど大きくなっているもの（高さ 8.6m）は貴重です。赤い幹が放射状に広がり、樹形も美しい木です。この木は、世田谷区登録天然記念物に指定されています。



名木物語⑨ 家を守ったアメリカスズカケノキ

アメリカスズカケノキ

10

国士舘大学 世田谷 4-28

国士舘創立期の中心を担ったひとり、山田（喜多）悌一氏により現在の世田谷キャンパス内にあった教職員宿舎の前庭に大正 10（1921）年頃植えられたとされています。昭和 20（1945）年 5 月の米軍空襲の際、国士舘も被災しましたが、大木になっていたアメリカスズカケノキ（プラタナス）の枝葉に守られて、教職員宿舎の山田邸は焼失を免れました。

その後、現在の 1 号館（建学の森会館）建設に際して、平成 12（2000）年 12 月に北側へ約 10mアメリカスズカケノキを移動させました。移植にあたっては、樹木の損傷を最小限にして活着を最優先させるため、樹木を立ち姿で横に移動する「立て曳き工法」が採用されました。予め掘った

溝の中を樹木本体を油圧ジャッキで浮かせて架台に乗せ、ワイヤーを人力で牽引するというものです。当時、アメリカスズカケノキは高さ 21m、総重量 72.5tで、準備から鎮座するまで要した人数は延べ 109 人、うち移動だけに要したのは延べ 43 人の大工事でした。

細心の注意を払った移植工事のかいもあり、アメリカスズカケノキは現在も元気な姿を見せています。

樹皮の様子はモミジバズカケノキと似ていますが、はがれないで残る樹皮が多いのが特徴です。



幹の模様いろいろ

木の幹には様々な模様があります。樹皮が特徴的な木を紹介します。

アキニレ

9

都立総合工科高等学校 成城 9-25

高さが15.9mあり、アキニレとしては大きな木です。枝を大きく広げた丸い樹形が美しく、学校の北側の道路から見えます。大きくなると幹がごつごつとし、樹皮が鱗状に不揃いにはがれるのが特徴です。



シマサルスベリ (群)

砧5

都立砧公園 砧公園 1-1



樹皮が細かくはがれ、美しいまだら模様になる幹が特徴的な木です。国内では沖縄県に自生しています。サルスベリほどではありませんが、幹はすべすべとしています。樹林の中の1本は、高さ27.1mもある大木です。



八百時の大黒柱ケヤキ

店舗 等々力 2-39

番 6

昭和 61 (1986) 年度に名木に選定された当時は八百屋の店の中にあり、屋根を突き抜けて大黒柱のように生育していました。老木になり、樹皮が鱗状にはがれ太く苔むした幹は堂々とした佇まいです。この木のある角を曲がると等々力溪谷公園に降りるゴルフ橋があります。



かつての様子

モミジバスズカケノキ

民間駐車場 深沢 7-22

97

30mを超える大木で住宅地の中に3本並んで生育しています。

スズカケノキとアメリカスズカケノキの交配種で英国でつくられたといわれています。樹皮がはがれ、茶色と薄緑と灰白色のまだら模様になります。スズカケノキの仲間は、学名でプラタナスとも呼ばれます。

やむを得ず伐採しました。



クロマツ

43

成城学園 成城 6-1



成城大学の正門前にある樹形の美しい、一对の大きなクロマツです。名木に選ばれているイチヨウ並木(p.15)はこのクロマツの向かいから始まっています。クロマツの幹は黒っぽく、名前の由来となっています。



アカマツ

4

区立赤松ぼっくり庭園緑地 赤堤 2-51

アカマツとしては珍しく下の方で二股に分かれた樹形です。幹が赤みを帯びていることが特徴で、幹の上の方を見るとクロマツとの色の違いが分かりやすいです。この緑地は最高裁判所長官赤堤公邸の跡地で、地域の方々の要望により当時の庭園の趣が残されています。

